

麦の穂

二十周年に寄せて 理事長 荒木 攻

人類の歴史からすると二十年は点にも相当しないかも知れないが、人の一生で考えると長い。この意味で二十周年おめでとうございませうと言われて、ありがとうございますと答えているのだが、この二十年間には多くの人との出会いがあり、離別があった。もちろん時の移ろいままに皆様の助けを頂いて、今日にたどり着いたわけである。

この間、医療情勢は随分と変わった。開院した昭和六一年にはどれだけ多くの病床数を持つ病院でも建築できたが、今は基準病床数の範囲内であるから、空きがない限り病院は広島市では建築できない。また、交通事故も軽いものから重いものまで様々な患者様が運ばれ、救急医療の勉強をさせてもらったが、今は平成九年より広島地区病院群輪番制がしかれてから重症例は三次救急病院に運ばれるため、我々のような二次救急病院では経験することが難しくなった。さらに交通事故は自賠責保険となるため、通常の保険診療点数の2倍だったので経営面では助かったのだが、今は1.2倍に下がっている。これは誰が県医師会長をやっておられた時かは忘れたが、全国的にみて1.2倍にした県はまだまだ少ない時期に、広島県は早々と2倍から1.2倍に引き下げることに保険会社と合意してしまった。レセプトの審査も厳しくなった。適応範囲内の正当な使用によっても高額な薬剤は査定を受ける。重症患者に対する呼吸心拍の監視は必須であるが、三日間位しか認められ

ない。それで、それ以後の監視を中止して患者様に何か起こらうものなら、それは全部病院の責任である。こんな割の合わない役目はごめんこうむりたい。

診療報酬の改定は二年毎にあるが、ここ三回連続して下がっている。物価あるいは人件費などの経費は上がるのに、医療収益が二年毎に下がるから、病院の経営は苦しくなる一方である。特に中小病院の小の方の病院は、専門に特化した病院でないと存続しないのではないかとされている。

厚生労働省の医療政策は、目標を持たずに迷走しているように見える。それに振り回されているのが医療の現場である。朝令暮改。しかし、迷走ではなく、振り回して置いて落し所に持っていくというものが本当であろう。江戸時代の農民への「生かさず、殺さず」に似ている政策でもある。こんな事を行っているのは誰かというとなのである。犠牲者も人。人を幸福にするのも不幸にするのも人である。六月はじめ、国際ロータリー年次大会がコペンハーゲンであり参加したが、その途中ドイツのベルリンに寄った。
*ベルリンの壁（写真）の前に立った。この壁はまさに人が人を不幸にした典型であろう。

病院も人づくりからはじめよう。そして良い医療の提供ができれば、国づくりにもつながるであろう。



ベルリンの壁の前に立つ筆者

* ベルリンの壁

ベルリンの壁は1961年から1989年の間に存在した東ドイツと西ドイツを隔てる壁として東ドイツが建設した。第二次世界大戦後、西ドイツ側をアメリカを始めとする資本主義国が統治し、東ドイツ側を社会主義国であるソ連が統治することとなったが、この際におきた摩擦により、壁が建設された。

冷戦の象徴ともいわれたこの壁は1989年東ドイツが海外旅行自由化法を制定したが、国境警備隊への連絡前にマスコミ向けの発表が行われ、同日テレビ局がこれを報道。国民の手により壁は崩壊された。この際国境警備隊は自ら検問所のゲートを開いたという。壁が壊されるまでに壁を越えようとし狙撃され、死亡した人は延べ192名に及ぶ。

診療放射線科



我々診療放射線科は、技師6名の地味な集団です。しかしいつも地味と言われながらも、実は診断の主役である高額医療機器を取り扱う院内でも取り分け華やかで恵まれた部署なのです。MRI、CT、DSA、X-TVなど主な設備を配し、毎日充実した業務をこなしています。

また、3年前から画像診断予約センターを立ち上げ、近隣の先生方より多くの検査依頼を請け賜っています。中でもMRIの検査数は、約30%を占め、高い紹介率となっております。しかし、現状で満足することなく、もっと多くの期待にお応えできるよう、スタッフ一同精一杯精進してまいります。平均年齢も20代後半と比較的若い集団です。普段は皆、大人しそうに見えるのですが、実は飲み会になると異様な盛り上がりを見せます。今後も若さ溢れるパワーで病院を盛り上げていきたいです。

放射線とは？

みなさんは「放射線」という言葉で何を発想しますか？怖いとか危険とか考える人が多いと思います。

放射線による体への影響は被曝した放射線量によって決まるので、高い放射線量（200mSv<ミリシーベル>以上）を被曝すると発ガンリスクが増加すると言われています。

しかし、放射線は自然界にも存在し、地面に含まれる天然の放射線物質は作物に吸収され、食事によって人体に取り込まれます。これら自然から受ける放射線を自然放射線といい、人は一年間に2.4mSv受けています。それによって人の身体には小さな傷ができますが、その傷は細胞が活性化（1年間に全身の70%の細胞が新しく生まれ変わります）することによって治ります。

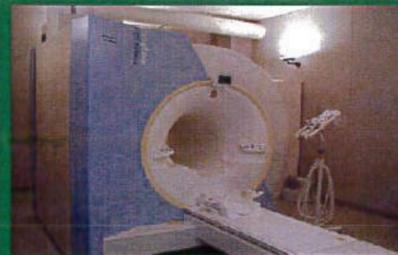
一般的な目安として胸部レントゲン撮影は一回当たり0.3mSv、X線TVを使用したバリウムによる胃の検査で4mSv、X線CTで1mSvといわれています。

このことから当院での放射線を使った検査は、恐れるような放射線量でないことがお分かり頂けるとと思います。放射線科では、患者様に不安のないように心掛けておりますが、ご不明な点等がございましたらお気軽に声をお掛け下さい。

当院放射線科で稼動している画像機器の一部を紹介致します。

・MRI（シーメンス）

磁場強度1.5テスラの高性能マシンです。導入されてからまもなく5年が経過しますが、機能的に色褪せることなくますます進化しています。特に脳外科分野での救急医療には必須で、全国的にも数少ない24時間の稼動を行っています。

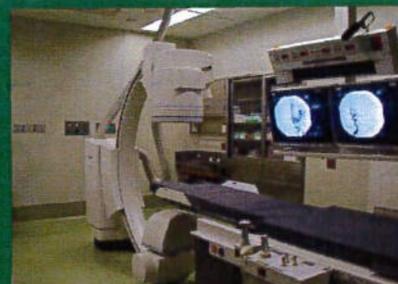


・X線CT（シーメンス）

全身用のヘルカルCT装置です。1スキャン最短1秒で、頭部の検査は1分もかからず、胸部や腹部でも短時間の息止めで検査が可能です。また、リアルタイムで結果が観察できるため、早期の診断はMRIより優れます。

・DSA（シーメンス）

造影剤を使用しての血管造影検査専用の装置です。秒間で数十コマ撮影した画像を連続再生することで血流の状態や血管の異常を見つけ出します。また最近では広島大学病院と連携して、コイル塞栓術や血栓溶解術などの血管内治療（手術）も行っています。



・X線TV（日立）

胃や腸のバリウム検査を主に行います。透視下での手術も可能です。CTと同じく画像はデジタルで処理されます。

プラザだより



4月12,13日に利用者の方々と一緒に春の行楽に出かけました。行き先は宮島サービスエリアとちゅーピーパークで、今年は例年に比べ桜の咲く時期が早かったために、開花状況が心配されましたが、とても綺麗に咲いていました。

両日とも天候に恵まれ、楽しく過ごして頂けることが出来ました。



あんしんプラザでは、見学や体験利用・介護相談などにも応じておりますので、お気軽に足を運んでみて下さい。また、ボランティアの募集も行っておりますので、お気軽にご連絡下さい。

今が旬!新じゃがいも!



じゃがいもの主成分は「でんぷん」で、この「でんぷん」が熱に弱いビタミンCを守る為、じゃがいものビタミンCは加熱しても損失しにくく、効率よくとることができます。ビタミンCには、メラニン色素の生成を抑えて、しみ・そばかすを改善したり、コラーゲンの合成に関わって、美肌の効果があります。他にも、カリウムも多く含むので、体内の余分なナトリウムを排泄するので、高血圧予防にも効果的です。今が旬の新じゃがいもを食べましょう。

じゃがいもの牛巻き (4人分)

材料:

じゃがいも 50g
牛もも肉薄切り 30g
バター 適量
塩こしょう 少々

ポイント

ビタミンCの多い食品と牛肉と一緒に調理すると、鉄分の吸収も促進されて、一石二鳥!



作り方:

- ①じゃがいもを4~5cm程の棒状に切り、軽くボイルする。
- ②じゃがいもを牛肉で巻き、塩・こしょうをする。
- ③フライパンにバターを溶かし、表面がこんがりする程度に焼いて、出来上がり。

食養部



新人職員のカープ観戦

去る四月二十日、地元広島カープの応援に、新入社員を含む二十一名で広島市民球場にいきました。初めて観戦する職員もいる中、期待と興奮を胸に始まったゲーム。そんな職員の思いが届いたのか、なんと初回に満塁ホームラン! 職員の気持ちは更にヒートアップし、応援にも力が入りました。試合途中には、場内の大画面に当院スタッフによる応援映像が流れるなど、病院一同でカープの勝利を願いましたが、惨敗・・・。

試合結果は残念でしたが、これからのカープへの期待をこめ『ガンバレ、カープ! 今年も優勝だ!』

院内活動報告



福利厚生活動報告

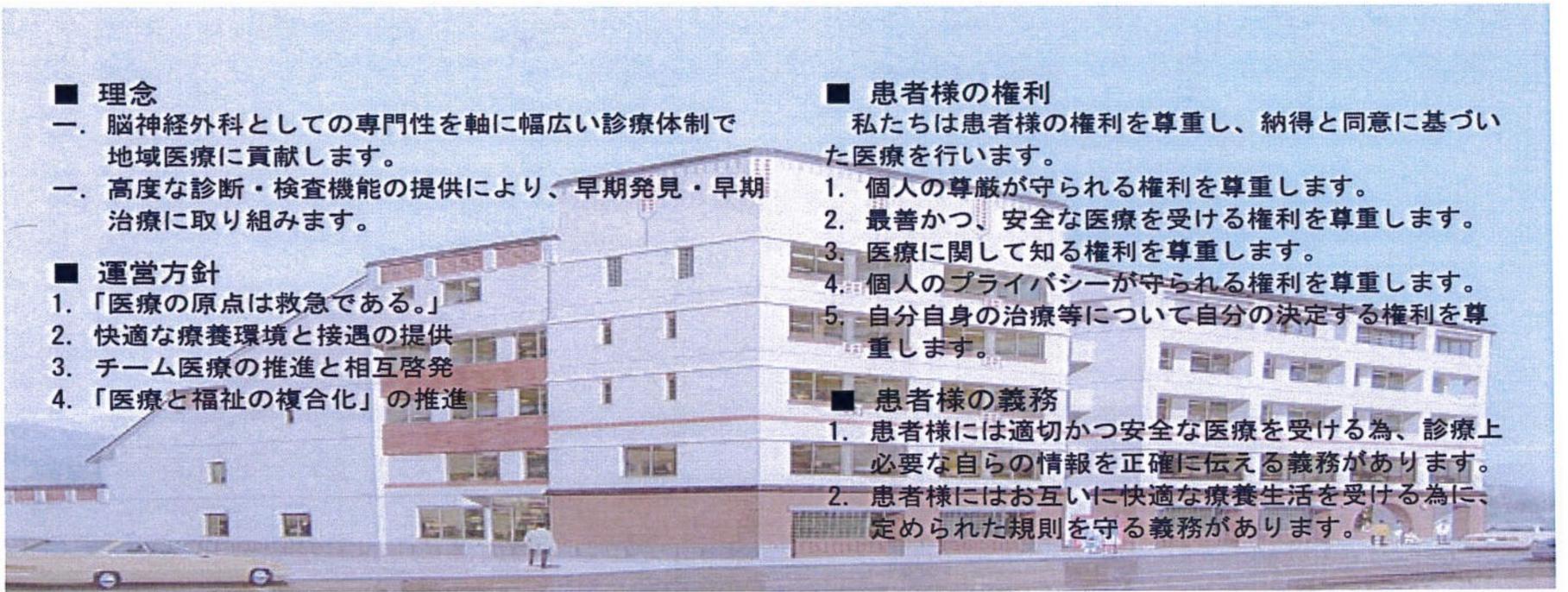
『ソフトバレー大会』

去る四月十七日、中区スポーツセンターにて『第一回医療法人光臨会ソフトバレー大会』が開催されました。院内各部署をはじめ、あんしんホーム、プラザデイサービススタッフが参加しました。第一回目ということもあり、理事長の挨拶の後、総勢六十五名・十二チームによって争われました。

熱戦が繰り広げられる中、腹が減ってはバレーは出来ぬ!というコトワザ(?)があるように、お腹を空かせた職員たちの前に登場したのが、「アタック 1弁当」。いつも病院の患者様の食事管理をしている食養部の方々が用意してくれたものでした。

試合結果は、ソフトバレー同好会メンバー率いる、リハビリテーション部の「ダブルMチーム」の圧勝でした。勝敗に関わらず、スポーツを通じて職種を越え、交流を深めることが出来たように感じました。





■ 理念

- 一、脳神経外科としての専門性を軸に幅広い診療体制で地域医療に貢献します。
- 一、高度な診断・検査機能の提供により、早期発見・早期治療に取り組みます。

■ 運営方針

- 1. 「医療の原点は救急である。」
- 2. 快適な療養環境と接遇の提供
- 3. チーム医療の推進と相互啓発
- 4. 「医療と福祉の複合化」の推進

■ 患者様の権利

私たちは患者様の権利を尊重し、納得と同意に基づいた医療を行います。

- 1. 個人の尊厳が守られる権利を尊重します。
- 2. 最善かつ、安全な医療を受ける権利を尊重します。
- 3. 医療に関して知る権利を尊重します。
- 4. 個人のプライバシーが守られる権利を尊重します。
- 5. 自分自身の治療等について自分の決定する権利を尊重します。

■ 患者様の義務

- 1. 患者様には適切かつ安全な医療を受ける為、診療上必要な自らの情報を正確に伝える義務があります。
- 2. 患者様にはお互いに快適な療養生活を受ける為に、定められた規則を守る義務があります。

Ⓢ 外来担当医表 Ⓢ

平成 18 年 7 月 21 日 ~

診察時間 午前 9 時 ~ 12 時
午後 3 時 ~ 6 時

初診受付時間 午前 8 時 30 分 ~ 11 時 30 分迄
午後 2 時 30 分 ~ 5 時 30 分迄

- 当院での診察は予約制となっております。
- 救急の場合は 24 時間受け付けております。

※1 第2水曜は休診

※2 水頭症外来

※3 循環器科

※4 東洋医学

※5 消化器科

※6 形成外科 第2水曜日(午前中のみ)月1回
平本 道昭 (大阪府済生会中津病院 形成外科)

脳神経外科

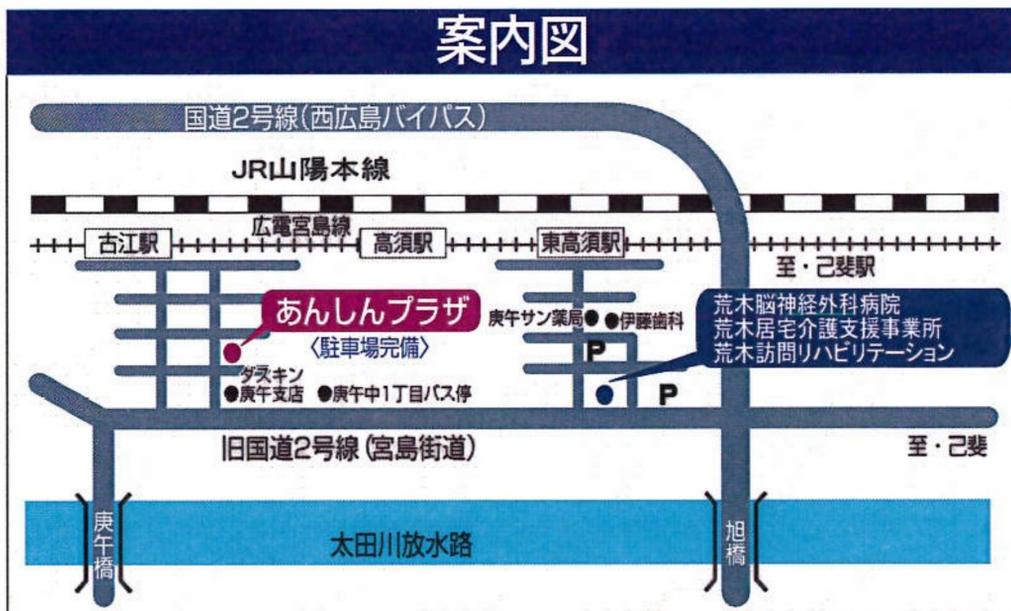
		月	火	水	木	金	土
午 前	初診(1診)	谷	長尾	広大	長尾	長尾	広大
	再診(2診)		押本	長尾	押本	谷	谷
	初診(4診)				院長	※2 押本	
	再診(4診)	院長		※1 院長			
午 後	初・再診(1診)	押本	谷	広大	押本	谷	広大

総合診療 (内科)

午 前	3診	※3 野村	※4 松島	※3 野村	※3 野村	※3 野村	※3 野村
	4診		※5 渡辺	※6 平本(形)			
午 後	3診	※3 野村	※4 松島	※3 野村	※3 野村	※3 野村	※3 野村
	4診						

整形外科

午 前	5診	竹迫	竹迫	竹迫	竹迫	竹迫	休診
午 後	5診	竹迫	竹迫	竹迫	竹迫	竹迫	休診



医療法人光臨会

荒木脳神経外科病院
〒733-0821 広島市西区庚午北2丁目8-7
TEL 082-272-1114
FAX 082-272-7048
E-mail info@arakihp.jp
ホームページアドレス http://www.arakihp.jp
荒木訪問リハビリテーション TEL 082-527-1123

荒木居宅介護支援事業所 TEL 082-507-6300
〒733-0821 広島市西区庚午北2丁目7-10

あんしんプラザ
〒733-0822 広島市西区庚午中2丁目11-15
プラザデイサービス TEL 082-507-6100
あんしんホーム TEL 082-507-6600

お知らせ

5月1日から訪問リハビリテーションを始めました。
理学療法士、作業療法士の2名で行っております。地域に根ざし、皆さまのお役に立てるような医療の提供を目指しておりますので、お気軽にご相談ください。

交通案内

- 自動車
西広島バイパス「庚午出口」より宮島方向へ100m(宮島街道沿い)
- 広島電鉄・宮島線
「東高須」下車 徒歩3分
- 広島バス 25号線
「庚午北2丁目」バス停前